

犬山市における子ども第三の居場所 「にじいろ寺子屋」 2年間のご報告



2024年6月2日

NPO法人シェイクハンズ

第三の居場所開設の経緯

2008年 「外国に繋がる子ども達の放課後の居場所」事業 開始

- ・ 県営楽田住宅 集会所で実施(毎週1回)
- ・ 2年後 楽田ふれあいセンターに移設(2013年より 市の委託事業)

・ 4年後



週1回では、とても学校についていけない！

2014年、自前で、マンション一室に「寺子屋」開設し、ほぼ毎日活動
2016年、旧楽田児童センターを(プロポーザルにて)犬山市より借用し、
「にじいろ寺子屋」をオープン

2022年4月、現在の児童センター2階に「にじいろ寺子屋」を移転
子ども第三の居場所としてオープン。

現在の実績 ① 日本語・学習支援、居場所としても。

- ・ 現在、毎週 月・火・水・木・金・日、土（随時） 開設
- ・ 毎週木曜日 15時～21時 犬山市委託+自主事業として、
「おかえりなさい塾」
- ・ 毎週日曜塾 10時30分～12時30分 犬山市委託事業として、
「みんなの日曜塾」（大人・親子の日本語教室）
- ・ 随時 就学前支援（親子サロン・プレスクール）

現在の実績 ②

- ・参加登録者 85人

- ・小学生 50人

- ・中学生 28人

- ・高校生 7人

- ・（外国籍…69人、日本籍…16人）

＋ 随時参加、緊急的な参加 も

生活保護家庭、準要保護家庭、ひとり親家庭
多子家庭、不登校、

主な取り組み

学習支援

宿題支援（外国籍は、日本語を育てる事により、学習意欲の向上）

苦手教科指導

タブレット等を使った学習

生活習慣づくり

掃除、食事準備・いっしょに食事、片付け、歯磨き習慣など

周囲と交わりながらの遊び（発達に多少凸凹のある子も）

体験の場づくり

野菜づくり、動物飼育、星空観察、自然体験、大学生との交流など

学習支援



居場所としての「おかえり塾」「寺子屋」



生活習慣



自然体験



体験の中で (くら)






保護者応援



出会って来た、いる…



- ・ 不登校、
 - ・ 家庭で、DV・性的虐待が疑われている子
 - ・ ひとり親家庭の子
 - ・ 経済的困難を抱える家庭の子、
 - ・ 多子家庭の子、
 - ・ 場面緘黙の子、発達に凸凹の疑いのある子
-

困難を重複的に抱えている家庭  シェルターの？

とりあえず？の居場所が 必要！？

気づき：日本の子でも、取り巻く困難は同じ！！

- ・ 外国人家庭を通じて知った、子どもの多様な背景と困難。
- ・ 外国人は、私達にとっては、見えやすいだけ。

保健センターや青少年センター、福祉課、学校現場などから。
何とか、少しでも？

とりあえず受け入れる場が、現実には ほかにはない？！

困難を抱える子ばかりでは… **ラベリングが怖い！**
多様な子が、一緒に育つ過程や環境が必要では？…

学校でもない、家庭でもない、居場所 ＝ 児童支援拠点施設

目的：子ども達が、生き抜く力を育む地域の学びの場として。
行政やNPO、企業、市民の方々と協働し、
誰一人取り残さない地域の子育てコミュニティをつくる。

- ①どの国籍・どんな環境に置かれている子ども達でも、
誰もが安心し、安全に過ごせる放課後の居場所を作る事で、
自己肯定感を育て、子どもの未来を広げ、希望あるものにしたい。
- ②犬山市南部地域での「第三の居場所」ができる事で、他の地域・周辺
でもこの事業が始まり、地域での子どもの課題を地域で解決できる地域
力を育てたい。



地域との繋がり 思わぬ効果



- ①ロータリークラブの催事参加後就職の依頼が！
- ②大手企業からインターシップの計画が浮上！

課題

- 学力や生活習慣の向上が、見える化しにくい
 - 日本語学習と学校の勉強との間で、ジレンマ
 - 居場所と学習支援の両立
 - 保護者への理解と啓発
 - 生活習慣・価値観の多様化
 - 地域行事への参加ができない
-
- 資金不足、人手不足
 - 個人情報壁、連携壁、偏見壁

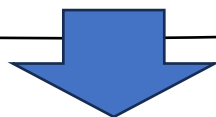
非認知能力を高めよう！

勉強ばかりでは、ダメ！？

いろんな遊び・体験をとおして

おもしろいこと・他では、できない事

多くの人・いろんな人との出会い



子ども達が選択できる道を もっともっと増やしたい！

今年度の新たな取り組み予定

- ・親子DE農業の取り組み
親ともっとコミュニケーションを取り、地域の方々ともっと、
溶け込みたい！
- ・もっと「寺子屋」の存在を知ってもらい、支援が届けられるような
キャラバンの取り組みができると良い。
- ・して貰うばかりでなく、できる事は自分でやり、人を
助ける事を身に付けてほしい。

いろんな人にもっと「居場所」に来てもらい、日常的に触れ合える
仕組みづくり(多様な人と、多様な関係性の中で)

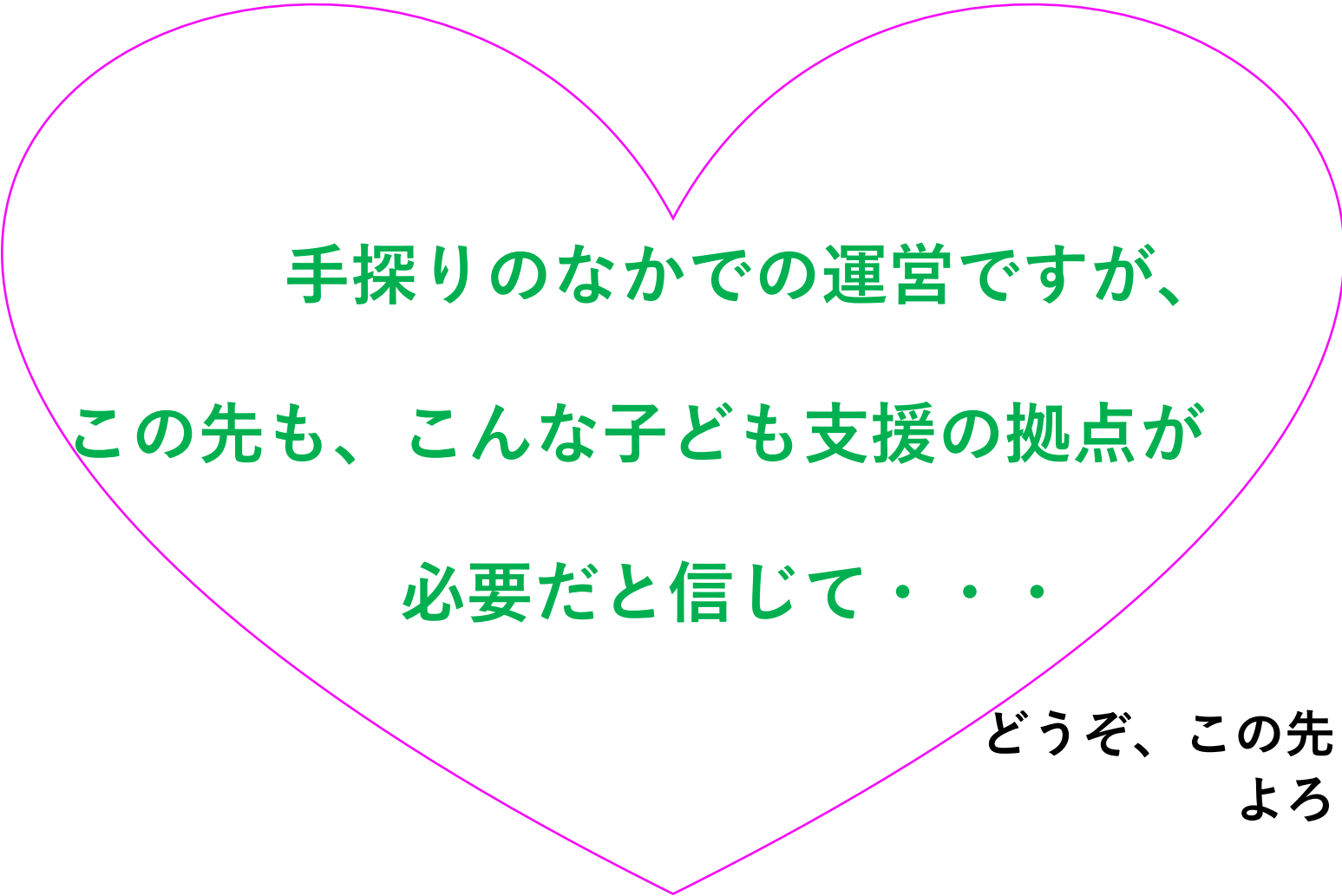
連携

犬山市多様性社会推進課・犬山市子ども未来課（各子ども未来園）、犬山市保健センター
犬山市教育委員会（各小中学校）・犬山市福祉課・犬山市社会福祉協議会、
愛知県多文化共生推進室、愛知県国際交流協会、名古屋国際センター、愛知県社会福祉協
議会、名古屋出入国在留管理局、

犬山市青少年センター、犬山市国際交流協会、一宮児童相談所、小牧市社会福祉協議会
楽田児童センター、名古屋経済大学、愛知淑徳大学、金城学院大学、名古屋市立大学、
犬山総合高校、楽田地区コミュニティ推進協議会

犬山市民活動支援センターの会（しみんていの会）、あいち子どもアドボカシー学会、
犬山市レクリエーション指導者クラブ、おもちゃ図書館まごころ、児童ディサービス
日本財団、（公社）日本フィランソロピー協会、（財）樫の芽会、（一財）タイム技研社
会

貢献委員会、大同メタル工業（株）、愛知子ども応援プロジェクト、（一社）愛知子ど
も食堂ネットワーク、東神鋳螺（株）、中部経済連合会、住友理工、尾張北部日本語教育
ネットワーク、外国人多文化共生ネットワーク、家庭療育センターFACE、子育てNPO団体



手探りのなかでの運営ですが、
この先も、こんな子ども支援の拠点が
必要だと信じて・・・

どうぞ、この先も ご協力・ご支援を
よろしくお願い申し上げます♥